

Interview



海老原 楽さん (21)
黒田 麻友さん (19)

なぶら市場へ行った帰りにイベントに立ち寄った二人。黒田さんが1年間限定で県内の学校へ通っているため、海老原さんは茨城県から6時間かけて会いに来たという。

「たまたま通り掛かったんです。イベントをやっていたので寄りました。2人とも県外出身なので、この先御前崎を訪れることはないかもしれませんが、でも、彼氏ときれいな夕日を見ることができ、バレンタインデーの良い思い出ができました。機会があればまた来たいです」

ドリームボックス。潮騒の像の足元にあるつぼの中から赤いひもを取ってくると良いことがあると配布された。→



❶寒さに凍える彼女を優しく包み込む彼氏。その二人を導くようにイルミネーションが輝く❷夕焼けとライトアップが織りなす光景は、まさにデートスポットにふさわしい❸階段の途中にもハート型のイルミネーションが設置され、撮影スポットに❹焼きチョコマシュマロで1日早いバレンタイン❺キャンドル作り。ろうそくでゆっくりとした時間をと発案された



【御前崎ケープパーク】

御前崎灯台周辺に広がる海と大地の調和をテーマにつくられた「歩いて自然と親しむ公園」。御前崎遠州灘県立自然公園にも指定されている。公園は、灯台と御前崎海洋センター前までの1.5キロに及び、遊歩道や

展望台、広場などが整備され散策が楽しめる。公園内にある「地球が丸く見えるん台」、「夕日と風が見えるん台」などの展望台では、陽の輝き、波の音、風の感触、潮の香りを感じることができる。



恋人の聖地

NPO法人地域活性化支援センターの恋人の聖地プロジェクトの一環。桂由美氏らが選定委員。

日本の夕日百選

御前崎の夕日は、日本の夕日百選に名を連ねている。県内では西伊豆町も選ばれている。



観光協会会員
島田春夫さん

「何かしなきゃ何も変わらない」

「地元の人でも来ないような場所なので人が集まるか、正直不安でした。少ない予算でも足を運んでもらえるような魅力あるイベントにしなければと常に考えていました。だって何かしなきゃ何も変わらないですから市民の人にも来年はぜひイベントに参加してほしいです。そして、御前崎ケープパークの良さにも気付いてほしいです」

全てが手作り

イベントは全てが手作りだという島田さん。スタッフは全員ボランティア。イルミネーション機材は市商工会から譲り受けたものを使用。キャンドルを入れる瓶は、自らがワインボトルを切って加工したものだった。